

表2 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準
(電子・情報システム工学専攻・本科平成28年度以降／専攻科令和3年度以降入学者用)

学習・教育到達目標		関連する基準1の(a)～(i)の項目	関連する基準1の(a)～(i)の対応	評価方法および評価基準
(A)	A-1	(c)	◎	評価方法(A-1) 数学、物理を中心とした自然科学及び情報技術の幅広い分野の知識を修得し、これらの知識を組み合わせることも含めて応用することができるために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)および指定の評価科目(下線)から必要単位数以上修得(本科科目は履修)することで評価する。 (専攻科) 「情報処理基礎演習Ⅰまたは情報処理応用演習Ⅰ」(各1単位)、「情報処理基礎演習Ⅱまたは情報処理応用演習Ⅱ」(各1単位)から1単位以上修得する。 (電気電子系学科, 情報電子系学科) 小項目(A-1)の科目のうち、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)を履修する。 主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(A-1) (専攻科) 線形代数学◎、情報科学◎、環境科学特論○、実験法の科学◎、工業数理◎、科学探究◎、先端技術特別講義◎、情報処理基礎演習Ⅰ◎、情報処理応用演習Ⅰ◎、情報処理基礎演習Ⅱ◎、情報処理応用演習Ⅱ◎、情報システム特論◎、生命工学◎、<u>情報システム演習Ⅰ○</u>、<u>情報システム演習Ⅱ○</u>、<u>長期インターンシップ○</u>、<u>地域連携演習○</u>、<u>国際コミュニケーション演習○</u> (電気電子系学科) 応用数学Ⅰ◎、応用数学Ⅱ◎、物性物理◎、応用化学◎、応用生物◎、環境科学◎、自系以外の3系融合科目(先進科学◎、機械システム◎、情報システム◎) (情報電子系学科) 応用数学Ⅰ◎、応用数学Ⅱ◎、物性物理◎、応用化学◎、応用生物◎、環境科学◎、自系以外の3系融合科目(先進科学◎、機械システム◎、電気電子システム◎)
	A-2	(g)	○	評価方法(A-2) 実験・実習をとおして、技術に関する基礎知識の理解を深めるとともに、自主的、継続的に学習する能力を修得するために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)および指定の評価科目(下線)から必要単位数以上修得することで評価する。 (専攻科) 関連した技能や手法を修得し、説明できるために各種実験課題について実験し、実験結果をレポートにして提出させ評価する。 (電気電子系学科, 情報電子系学科) 小項目(A-2)の科目のうち、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)を履修する。 主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(A-2) (専攻科) <u>電子・情報システム特別実験○</u>、<u>実験法の科学○</u>、<u>電子・情報システム特別研究Ⅰ・Ⅱ○</u> (電気電子系学科) 電気電子システム工学実験○、卒業研究○、全系横断演習Ⅱ◎ (情報電子系学科) 情報システム工学実験○、卒業研究○、全系横断演習Ⅱ◎
	A-1 A-2	(c) (g)	◎ ○	総合基礎試験 本科の成績不良者、転系、他高専からの専攻科入学者などのうち(A)の単位数が不足する者に対して、(A)に関する総合的試験を行い、学習・教育到達目標の達成度を評価する。60点以上を合格とする。 各学習・教育到達目標に関連する本科の科目より問題を作成し、試験あるいは課題レポート(課題レポートの場合は口頭試問を行う)を実施する。その結果、各学習・教育到達目標に対応する成績がそれぞれ60点以上あるかどうかで評価する。
(B)		(d)-1	◎	評価方法(B-1) 「電気・電子」、「情報・制御」に関する専門技術分野の知識を修得し、説明できるために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)および指定の評価科目(下線)から必要単位数以上修得(本科科目は履修)することで評価する。 (専攻科) (1) 小項目(B-1)の専攻科の主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)を、シラバスに記載した評価方法に従って修得する。 (2) 「技術英語講読」(2単位)、「実践英語ⅠまたはⅡ」(各2単位)から2単位を修得する。 (電気電子系学科, 情報電子系学科) 小項目(B-1)の科目のうち、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)を履修する。 主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(B-1) (専攻科) 電磁気学特論◎、電気電子機器◎、コンピュータシステム工学◎、工学総論Ⅰ◎、工学総論Ⅱ◎、回路網解析◎、電子デバイス工学◎、電力制御工学◎、数値解析特論◎、画像処理◎、デジタル信号処理特論◎、<u>情報システム特論○</u>、<u>情報システム演習Ⅰ◎</u>、<u>情報システム演習Ⅱ◎</u>、<u>システム制御工学◎</u>、<u>生産管理工学◎</u>、<u>実践英語Ⅰ◎</u>、<u>技術英語講読◎</u>、<u>実践英語Ⅱ◎</u>、<u>先端技術特別講義○</u> (電気電子系学科) 発電工学◎、送配電工学◎、電気法規◎、パワーエレクトロニクス◎、電気回路Ⅱ◎、電気磁気学Ⅱ◎、電気電子材料◎、物性物理○、英語Ⅳ◎、英語Ⅴ◎ (情報電子系学科) 制御工学◎、回路システム◎、情報数理◎、情報システム◎、システムプログラミング◎、eビジネス◎、電気磁気学◎、電子回路◎、物性物理○、英語Ⅳ◎、英語Ⅴ◎
		(d)-1	◎	評価方法 総合基礎試験 本科の成績不良者、転系、他高専からの専攻科入学者などのうち(B)の単位数が不足する者に対して、(B)に関する総合的試験を行い、学習・教育到達目標の達成度を評価する。60点以上を合格とする。 各学習・教育到達目標に関連する本科の科目より問題を作成し、試験あるいは課題レポート(課題レポートの場合は口頭試問を行う)を実施する。その結果、各学習・教育到達目標に対応する成績がそれぞれ60点以上あるかどうかで評価する。

学習・教育到達目標		関連する基準1の(a)–(i)の項目	関連する基準1の(a)–(i)の対応	評価方法および評価基準
(C)	C-1	(d)-1 (d)-2 (g)	○ ◎ ◎	評価方法(C-1) 自主的・継続的に実験を遂行し、データを解析・考察できる能力を修得するために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)および指定評の価科目(下線)から必要単位数以上修得することで評価する。 (専攻科) 関連した技能や手法を修得し、説明できるために各種実験課題について実験し、実験結果をレポートにして提出させ評価する。 (電気電子系学科, 情報電子系学科) (1) 小項目(C-1)の科目のうち、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)を履修する。 (2) 本科での主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)が必修科目の卒業研究だけなので総合基礎試験の実施は必要ない。 主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(C-1) (専攻科) 電子・情報システム特別実験○、電子・情報システム特別研究Ⅰ、Ⅱ○、情報処理基礎演習Ⅰ・Ⅱ○、情報処理応用演習Ⅰ・Ⅱ○、情報科学○、実験法の科学○ (電気電子系学科) 電気電子システム工学実験○、卒業研究◎、全系横断演習Ⅱ○ (情報電子系学科) 情報システム工学実験○、卒業研究◎、全系横断演習Ⅱ○
	C-2	(i)	◎	評価方法(C-2) 課題解決のために他者と共通認識を形成しながら、チームで仕事をするための能力を修得するために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)および指定評価科目(下線)から必要単位数以上修得することで評価する。 (専攻科) (1)「電子・情報システム特別実験」(4単位)の授業において、いくつかの実験課題を提示し、各課題の内容理解や課題解決に組織的に取り組ませる。その中で、意見交換やディスカッションをとおして、自己や他者の役割の確認とそれぞれの役割を果たしたかどうかの判断をさせ、その結果を相互評価票や報告書等にまとめさせることによって評価する。 (2) 本科での主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)がないので総合基礎試験の実施は必要ない。 主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(C-2) (専攻科) 電子・情報システム特別実験◎、電子・情報システム特別研究Ⅰ・Ⅱ○、長期インターシップ○、地域連携演習○
(D)	D-1	(d)-1 (e)	◎ ◎	評価方法(D-1) ハードウェア・ソフトウェアを利用した適切な方法を用いて、要求された電子・情報システムを制約の下で、種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を修得するために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)および指定の評価科目(下線)から必要単位数以上修得(本科科目は履修)することで評価する。 (専攻科) (1)「電子・情報システム特別研究Ⅰ、Ⅱ」(16単位)を修得する。 (2) 本科での主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)が必修科目の電気電子システム工学実験または情報システム工学実験だけであるので本校本科出身者には総合基礎試験の実施は必要ない。 主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(D-1) (専攻科) 電子・情報システム特別実験○、電子・情報システム特別研究Ⅰ、Ⅱ○、情報システム演習Ⅱ○ (電気電子系学科) 電気電子システム工学実験◎、卒業研究○、全系横断演習Ⅱ○ (情報電子系学科) 情報システム工学実験◎、卒業研究○、全系横断演習Ⅱ○
	D-2	(d)-2 (f) (g) (h) (i)	○ ◎ ◎ ◎ ○	評価方法(D-2) 自主的、継続的な学習を通じて、学内外で得た専門知識等を応用して的確に問題を把握し、チーム内での討議などのコミュニケーションを経て見出した解決策により問題を解決し、その一連について論理的に記述でき、また、口頭による発表ができる能力を修得するために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)から必要単位数以上修得することで評価する。 (専攻科) (1)「電子・情報システム特別研究Ⅰ、Ⅱ」(16単位)を修得する。 (2)「電子・情報システム特別研究」(16単位)の授業において、研究テーマ発表会をとおして自ら研究課題について説明させる。さらに研究チーム内での討議などのコミュニケーションを経て複数の解決策を考えさせ、実験やシミュレーションによる試行錯誤を重ねながら適切な解決策や方法を見つけているかを中間発表や特別研究審査会において複数教員により多面的に評価する。 (3) 本科での主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)がないので総合基礎試験の実施は必要ない。 主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(D-2) (専攻科) 電子・情報システム特別実験○、電子・情報システム特別研究Ⅰ、Ⅱ◎ (電気電子系学科) 電気電子システム工学実験○、卒業研究○、全系横断演習Ⅱ○ (情報電子系学科) 情報システム工学実験○、卒業研究○、全系横断演習Ⅱ○
	D-1	(e)	◎	総合基礎試験 他高専からの専攻科学者などのうち(D-1)の単位数が不足する者に対して、(D-1)に関する総合的試験を行い、学習・教育到達目標の達成度を評価する。60点以上を合格とする。 各学習・教育到達目標に関連する本科の科目より問題を作成し、試験あるいは課題レポート(課題レポートの場合は口頭試問を行う)を実施する。その結果、各学習・教育到達目標に対応する成績がそれぞれ60点以上あるかどうかで評価する。
(E)		(a) (b) (i)	○ ◎ ○	評価方法(E-1) 世界的視点から、一定の組織により生み出された技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関して理解し、行動していく能力を養うために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)から必要単位数以上修得することで評価する。 (専攻科) (1)「工学倫理」または「現代哲学」(各2単位)から2単位以上修得する。 (2)「工学倫理」(2単位)の授業において、前半では、グループ報告書と他者評価を含む個人報告書で評価し、後半では、小論文を含む報告書と討議と発表におけるプレゼンテーションで評価する。 (3)「現代哲学」(2単位)の授業では、課題レポートおよび授業中の発表で評価する。 (4)「電子・情報システム特別研究Ⅰ・Ⅱ」(16単位)をシラバスの評価方法に従って修得する。 (5)「電子・情報システム特別研究Ⅰ・Ⅱ」(16単位)の授業において、技術者倫理に関する講演会を必ず聴講し、レポートを提出させて評価する。 (6) 本科での主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)がないので総合基礎試験の実施は必要ない。 主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(E-1) (専攻科) 工学倫理◎、現代哲学◎、環境科学特論○、長期インターンシップ○、先端技術特別講義○、電子・情報システム特別研究Ⅰ、Ⅱ○ (電気電子系学科, 情報電子系学科) キャリアマネジメント○、技術者倫理○

学習・教育到達目標		関連する基準1の(a)-(i)の項目	関連する基準1の(a)-(i)の対応	評価方法および評価基準
(F)		(a) (b) (e) (h) (i)	◎ ○ ◎ ○ ○	評価方法(F-1) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養を養い、種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を修得するために、各シラバスに記載した評価方法に従って、下記の通り、主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、および、指定の評価科目(下線)から必要単位数以上修得することで評価する。 (専攻科) (1)「国際文化論」または「社会科学概論」から2単位以上修得する。 (2)「国際文化論」(2単位)の授業では、試験、課題レポートで評価する。 (3)「社会科学概論」(2単位)の授業では、課題レポートで評価する。 (4)「環境科学特論」(2単位)の授業では、試験、レポート課題、演習で評価する (5)「電子・情報システム特別研究Ⅰ・Ⅱ」(16単位)をシラバスの評価方法に従って修得する。 (6)「電子・情報システム特別研究Ⅰ・Ⅱ」(16単位)の授業において、企業等で校外実習を行い、現場での生産・試験活動を経験させ、報告書にまとめて提出させるとともに報告会で発表させてその成果を評価する。学協会への参加や先端技術特別講義の科目での学習を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からもものを見ることの大切さを理解する。なお、校外実習・実社会の技術と遊離しないように、知識を深め、さらにコミュニケーション能力の向上や技術者倫理の理解を深めることを目的に設けられた選択科目である「長期インターンシップ(2単位)」を校外実習の代わりに選択することもできる。 (7) 本科での主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)がないので総合基礎試験の実施は必要ない。
				主体的に学習・教育到達目標に関連する科目(◎印)、指定の評価科目(下線)、および、付随的に学習・教育到達目標に関連する科目(○印)(F-1)(専攻科) 国際文化論◎、社会科学概論◎、環境科学特論◎、長期インターンシップ○、電子・情報システム特別研究Ⅰ、Ⅱ○、先端技術特別講義○、地域連携演習○、国際コミュニケーション演習○ (電気電子系学科、情報電子系学科) 環境科学○

- (注1) 講義:1単位時間、15回＝1単位
 演習:2単位時間、15回＝1単位
 実験:3単位時間、15回＝1単位 を標準とする。
- (注2) (1)一般科目修得単位には、「実践英語Ⅰ」または「実践英語Ⅱ」から2単位(電子・情報システム工学専攻においては、専門科目「技術英語講読」で置き換えることができる)、および「国際文化論」または「社会科学概論」から2単位を含むこと。
- (2)一般科目修得単位に「現代哲学」2単位、または専門共通科目修得単位に「工学倫理」2単位を含むこと。「現代哲学」は一般科目、「工学倫理」は専門共通科目であるため、専攻科の修了要件とはならない。
- (3)専門共通科目修得単位に「情報処理基礎演習Ⅰ」、「情報処理応用演習Ⅰ」、「情報処理基礎演習Ⅱ」、または「情報処理応用演習Ⅱ」から1単位を含むこと。